



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所(二日町)
在宅療養支援有床診療所(浦佐)

もえぎ

馬場花子
さん書

11

Vol. 390
2024/11.15

関 薫司(セキ シゲジ)様
100歳のお祝い10/5
撮影地:地蔵の湯
撮影者:地蔵の湯職員



INDEX

- 2 ■ 皆川医師/りらいふ 主任 南雲さん
- 3 ■ 就任挨拶 田邊医師/松島医師
- 4 ■ 黒岩卓夫一代記
- 5 ■ 巖志理事長活動報告
- 6 ■ NPO地域共生を支える
医療・介護・市民全国ネットワーク
第3回 全国の集い in 福岡 2024
- 7 ■ 利用者紹介/事業所紹介/編集後記/コラム
- 8 ■ 黒岩たかひろ衆議院議員選挙 当選報告

診療所からのお知らせ

インフルエンザの季節です。
予防接種はお早めに。

予約なしでも接種可能です

※コロナワクチンとの同時接種も可能です

※詳細は萌気会ホームページ、
院内のご案内をご覧ください。

地蔵湯
あなたには日々の笑顔が
百歳を迎えた今こそ
元気に過ごされたい
これは地蔵の湯から
あります
よってここに表彰状を
贈ります

表彰状
関 薫司 殿
大正十三年 七月一日

所長 世間直人

食品添加物

日本人の2人に1人はガンにかかると言われている。しかもガンの発生もガン死の割合も徐々に増えている。一方、欧米先進国ではいずれも、ガン発生は減っている。なぜ同じ先進国のうち日本だけにガンが増えているのか。気候、環境、公害(大気汚染)、喫煙等いくつか原因となるものが挙げられるが、やはり何といつても毎日、口から入る食品によるものであろう。農作物の残留農薬、加工食品の添加物、養鶏、畜産でのエサに抗菌剤、ホルモン剤混入等の影響が考えられる。このうち動物実験で発ガンが証明されたもの上位は以下の物質がある。①人工甘味料ーアスパルテーム、スクラロース②ハム、ソーセージの発色剤として使用される亜硝酸ナトリウム、これは青酸カリと同類である。この肉を高温で焼いた時発生するニトロソアミンも発ガン物質となる。③ウコン色素、カレールーに含まれる黄色色素で、過剰摂取により肝ガン発生。④タール色素は菓子、アメの色付けに使う。石ケン、入浴剤にも使われ、接触部にガン発生。⑤二酸化チタン、ヨーグルト、チョコの白色化。粉末吸引で肺ガンの発生に関与。これ以外にも多種あるが欧米では規制ないし禁止されているものが多い。最近では中国、韓国でも規制が拡大されている。日本でも食品添加物規制の声が高まるが、食品工業会、化学工業会等々政治資金を通じた政党への働きかけにより関係省庁の手で骨抜きになるという構図も想像に固くない。



萌気園二日町診療所
皆川 秀夫

日本人の2人に1人はガンにかかると言われている。しかもガンの発生もガン死の割合も徐々に増えている。一方、欧米先進国ではいずれも、ガン発生は減っている。なぜ同じ先進国のうち日本だけにガンが増えているのか。気候、環境、公害(大気汚染)、喫煙等いくつか原因となるものが挙げられるが、やはり何といつても毎日、口から入る食品によるものであろう。農作物の残留農薬、加工食品の添加物、養鶏、畜産でのエサに抗菌剤、ホルモン剤混入等の影響が考えられる。このうち動物実験で発ガンが証明されたもの上位は以下の物質がある。①人工甘味料ーアスパルテーム、スクラロース②ハム、ソーセージの発色剤として使用される亜硝酸ナトリウム、これは青酸カリと同類である。この肉を高温で焼いた時発生するニトロソアミンも発ガン物質となる。③ウコン色素、カレールーに含まれる黄色色素で、過剰摂取により肝ガン発生。④タール色素は菓子、アメの色付けに使う。石ケン、入浴剤にも使われ、接触部にガン発生。⑤二酸化チタン、ヨーグルト、チョコの白色化。粉末吸引で肺ガンの発生に関与。これ以外にも多種あるが欧米では規制ないし禁止されているものが多い。最近では中国、韓国でも規制が拡大されている。日本でも食品添加物規制の声が高まるが、食品工業会、化学工業会等々政治資金を通じた政党への働きかけにより関係省庁の手で骨抜きになるという構図も想像に固くない。



萌気園訪問リハビリテーション
曼陀羅華 担当主任 南雲 萌

皆さん「デイケア」はご存じですか? 曼陀羅華は「デイケア」に当たる施設で「通所リハビリ」とも言われ、利用者さんが可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、医師の指示のもと専門職がリハビリを行う施設です。ただ、一概に「デイケア」といっても施設ごとに機器設備などに差はあり、提供できるサービスが異なります。曼陀羅華にはマシーンなどはなく、担当制での個別リハビリを提供しています。午後には、介護職による集団体操も行っており、大変評判が良いです。「リハビリ＝運動」というイメージを持つ方は多いですが、「人間らしく生きる権利の回復」「自分らしく生きること」が重要で、その為に行われる全ての活動がリハビリテーションです。施設の特徴や自分が求めているサービスを受けられるか、ご自身に合う施設かを確認し選択していただ

曼陀羅華ってどんな場所?

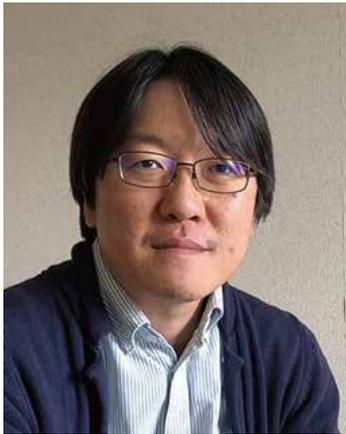
皆さん「デイケア」はご存じですか? 曼陀羅華は「デイケア」に当たる施設で「通所リハビリ」とも言われ、利用者さんが可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、医師の指示のもと専門職がリハビリを行う施設です。ただ、一概に「デイケア」といっても施設ごとに機器設備などに差はあり、提供できるサービスが異なります。曼陀羅華にはマシーンなどはなく、担当制での個別リハビリを提供しています。午後には、介護職による集団体操も行っており、大変評判が良いです。「リハビリ＝運動」というイメージを持つ方は多いですが、「人間らしく生きる権利の回復」「自分らしく生きること」が重要で、その為に行われる全ての活動がリハビリテーションです。施設の特徴や自分が求めているサービスを受けられるか、ご自身に合う施設かを確認し選択していただ

けると良いのではないかと思います。今後の展望としては、小スペースでも使える機器等を取り入れ、利用者さんが運動してみようと思っただけで環境も整えていけたらと思います。





萌気園二日町診療所 院長
田邊 繁世



就任挨拶

この度二日町診療所に11月より着任いたしました、田邊と申します。

元々は腎臓内科で透析などの医療に携わっておりました。その後、訪問診療などを行い、2022年より浦佐診療所にて外来診療を行なっております。

歴史のある二日町診療所で外来診療を行うにあたり、若干緊張しているところもありますが、創設者の黒岩卓夫先生が目指した、地域に根ざした診療所に少しでも近づけるように、微力ながら力を尽くして参ります。

一人の人間の力でできることは限られていますが、よろしくお願いいたします。

燕市出身、アラフォーティー。お酒が好きで、甘いものは苦手、一番好きな食べ物はウィンナー。好きな有名人は、ロビン・ウィリアムズ。

浦佐診療所では二年七ヶ月間診療していただきましたが、気さくで口調が優しく、おちゃめな面白いところもあり患者さんから大人気でした。もちろん、スタッフにとっても癒してくれる存在でした。

今月から二日町診療所の院長に就任します。旧六日町地域で訪問診療を手広くやっている医療機関は二日町診療所だけなので、田邊先生が引き続き外来および訪問診療をしっかりと担っていくことになります。また、新潟大学の腎臓内科での研鑽が長かったですが、浦佐診療所へ赴任する直近は上越地域で多くの患者の訪問診療を担っていたので総合内科医でもあります。外来では小児科診療(主に感染症、皮膚トラブル、予防接種)も行います。

前院長の皆川先生は、少々診療を縮小し来年3月末まで診療していただく予定です。



萌気園浦佐診療所 常勤医師
松島 一雄

就任のごあいさつ

長く勤めた大和病院を辞し、この度萌気園にお世話になることになりました。

今回の異動で多くの患者さん方にご迷惑をおかけいたしますこと、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

群馬県太田市に生まれ、山形大学を経て、栃木および大宮の自治医大で研修後、この地にお邪魔してはや25年。人生で最も長い時間を過ごさせていたいただいています。「地域住民の生きるを支える」つもりが、むしろ住民の皆様を支えられこれまでやってこれました。本当に感謝しております。もう少しで高齢者の仲間入りという歳になりましたが、皆様に恩返しができますように、もうひと頑張りさせていただきます。

そして、残念ながら既に崩壊してしまった大和地域の地域包括ケアシステムを、どうしたら再び住民本位の形に戻すことができるのか、この場所から考え続けていきたいと思っております。



自治医大では、地域診療部および循環器内科で研鑽を積んでおり、総合内科医であると同時に循環器内科医でもあります。火曜日の午前中には数件の胃カメラも担当していただきます。心臓や血管専門の循環器内科医としては不整脈、狭心症、心不全などの患者さんを大勢診療しております。また、心臓ペースメーカーの管理も行いますし、以前は二日町診療所でしか受けることができなかつた心エコーを浦佐診療所でも受けられるようになりました。

浦佐診療所の月二回(第二、第四週)の土曜日午前外来は基本的には全て松島先生が担当します。

大和勤務中、南魚沼市民病院での外来診療も担っていたので旧六日町・塩沢地区の患者さんも診ていました。その患者さん達が引き続き松島先生の外来に通院できるように毎週金曜日の午前診療および第三金曜日の夕方診療は二日町診療所で外来を担当します。

和解ある老いと死

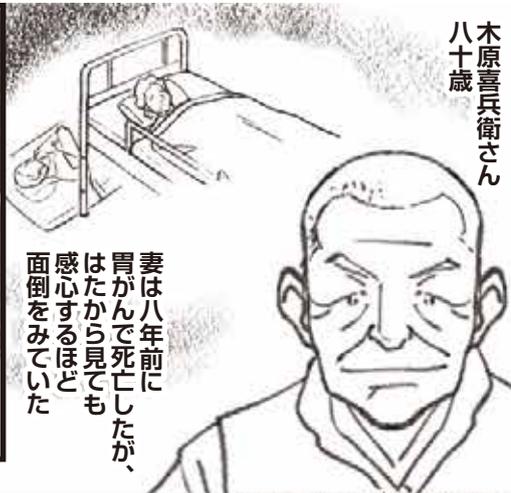
血縁①

原作・黒岩卓夫 画・福留慶 方言アドバイザー・おかつへ



黒岩のバカ、俺んことを殺しもできんば、生かすもできねえくせに

木原喜兵衛さんが私に向けた言葉である



木原喜兵衛さん 八十歳

妻は八年前に胃がんで死亡したが、はたから見ても感心するほど面倒をみていた

しかし三年前に軽い脳卒中となり、体の不調を訴えたが



頭痛、ふらつき、不眠が訴えの中心で、日常生活に支障をきたすほどではなかった



そんな喜兵衛さんは、私と気が合ったのか二週に度は外来を訪れた



しかし、フラツキが酷く1カ月程入院した後、病院へ顔を見せなくなった

私は気にはなりつつも病状の確認もせず3カ月が過ぎていた



そうするうちにホームケアステーションの保健師から

木原のじいちゃんがボケてきて、家に閉じ込められてるがぁって!



その話を聞き、保健師の様子を見に出かけたのだった



その後、玄関先で転び左手首を骨折し入院した



左片麻痺が急に悪化脳のCT写真によると、軽い脳の萎縮と小病巣がいくつか認めれる多発性脳梗塞と診断された

こつした病変からぼけが始まっても不思議ではない



その夜の出来事である



同居している長女が異様な物音で目を覚ました



じいの部屋を覗くと薄暗い部屋の中で、コウモリのように両手を舞うように羽ばたかせ壁から壁に移動していたのだ



やだ、じいちゃん!なんしてるんだって!!

部屋の電気を点けて、さらに驚いたのだった



じいちゃんは下半身には何もつけず、

自分の大便をつかんで壁に塗りつけていたのだ



その日から喜兵衛さんはぼけたとされ小部屋に軟禁されたのだった

この章は、「血縁」がテーマだ。とりわけ最近是在宅か特養かが人生最後の選択のようにになっている。在宅は本人の意思と介護力での家族の力で実現されている。医療はもちろん、最期を看取りたいの思想や愛着から在宅が実行されている。今は多くのケースでは介護や医療は「血縁」の選択を乗り越えることは難しい。しかし本人の意思がはっきりしていれば在宅を選択維持される場合が多い。はたしてこの喜兵衛さんはどうなるだろうか?

第16回 在宅ケアを考える集い in 越後

第16回 在宅ケアを考える集い in 越後 報告

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志

今回は、新潟県在宅医療推進ブロックフォーラム、および第3回地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク新潟プレ大会を兼ねて新潟県で9月29日に開催された。

テーマは、『医療介護が織りなす地域包括ケア』
前半の基調講演は『地域共生の実現に向けた医療介護連携とは』と題し、北海道北見市で医療ソーシャルワーカー（MSW）として地域の医療・介護連携の深化に貢献されている関健久さんにご登壇いただいた。関さんは、『地域共生社会の構築や地域包括ケアが叫ばれているのは、生産年齢人口の減少に伴い医療・介護人材が不足するからであり、その解決策として3つのことが挙げられる。①ICTやロボットなど、テクノロジーの活用。②適切なケアマネジメントにより迅速な介護サービス利用者支援につなげる。③多職種ケアチームが知恵を出し合い『患者・利用者が望む生活や暮らしの意向』を把握し、尊重し、実現につなげる。③が最も重要であり、そのためには、MSWやケアマネジャーだけではなく多職種ケアチームが利用者ファーストの地道な面接や対話を繰り返すことが必要。』と述べた。

私は、後半のシンポジウムの座長を担当した。シンポジウムテーマは『想いをつなぐ入退院支援』。県内各地の、ケアマネジャー、訪問看護師、病院のMSW、診療所のMSW、診療所の医師が登壇し、入退院支援における各地の取り組み、実践をご報告していただき、課題、対策などについて参加者とともに討論を行った。このシンポジウムを通して『入退院を繰り返しながら次第に弱ってゆく人生の最終

ステージにおいて、本人、家族の意向・想いを知り、多職種で共有し、さらに、本人、家族、専門多職種での十分な対話により想いを紡ぐことで本人の希望に近づけてゆくことが重要である』ということをご共有できた。



シンポジウム 「想いをつなぐ入退院支援」に参加して

萌気園訪問リハビリテーションりらいふ
言語聴覚士 金本 優理

黒岩巖志理事長と高村恵さん（新潟県介護支援専門員協会）が座長を務められたシンポジウム「想いをつなぐ入退院支援」では医師、訪問看護師、ソーシャルワーカーそれぞれの立場での取り組みが紹介されました。



印象に残ったのは、在宅医療に携わる今野医師の「患者さんに興味を持ち積極的にコミュニケーションをとり、想いを知るアプローチを。その方の人生について語れるということが大事であり、時には聞きにくいことも聞いて不安の払拭に尽力する」との言葉です。そしてどのシンポジストも利用者さんご家族の「想い」を汲みとるばかりではなく、その「想い」を関係職種で共有することをとても大切にされていました。

自分が利用者さんとリハビリをする上でもその目標は常にご本人ご家族の「想い」に沿ったものでありたいと改めて思い、また汲みとれた「想い」は大切に共有していきたいと思いました。



NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第3回 全国の集い in 福岡 2024

福岡大会を終えて

あやめ診療所
公認心理師 鈴木 美智子

私は、「ペアレント・トレーニングの個別実施の試みと成果」について発表しました。ペアレント・トレーニング（以下ペア・トレ）とは、肯定的な親子関係を構築する為の手法です。本来は集団に対して行うのですが、あやめ診療所では全て個別に実施しています。集団と個別実施それぞれの経験から、実施形態により効果は異なるのか否かをアンケートより分析評価し、その結果を発表しました。結果は、個別実施の方が親子双方にとって有益であり、効果には差異がありました。

発表してみたの感想は、“ペアトレは、今後益々必要とされていくだろう”です。この手法が10年～20年を経て十分に周知されていくことを期待しつつ実践交流会を終えました。

今後も萌気会で頑張りたい気持ちを胸に、福岡の地を後にしてきました。



全国の集い in 福岡を終えて

萌気園通所リハビリセンター 浦佐
山田 春樹

リハビリセンター浦佐では、運動後に筋肉への栄養補給として利用者さんにプロテインを提供しています。介護施設でプロテインを提供している施設は全国でも珍しく、今後も継続していただきたいとの激励や、飲用している利用者さんの様子の変化を問う質問を受けました。運動を売りにしている施設は多数あると思いますが、運動と栄養は別々に考えている施設も少なくないと思います。その点、リハビリセンターは運動と栄養（プロテイン）を考えると一歩進んだ施設なのだと実感することも出来ました。

今後も運動と栄養、その先にある健康を提供できるよう努力しようと思える研修となりました。



山田

今井

NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第3回全国の集い福岡大会に参加して

事務局長
上村 光男

11月2日はあいにくの天候で、福岡空港では着陸時の揺れも酷くハラハラドキドキの出発でした。大会は初日、2日目共に天候に恵まれました。第3回全国の集いに参加しました。巖志理事長のスポンサーセミナー、黒岩卓夫先生の特別講演も萌気会参加者全員が聞く事が出来ました。

萌気会からは実践交流会は2つの事業所から、リハビリセンターの山田春樹さんと今井絵美さん、あやめ診療所生活サポート外来の鈴木美智子さんが発表しました。それぞれが堂々と発表しておりました。リハビリセンターは昨年のフォローアップ賞からの2年連続の発表でした。今回は賞には届きませんでしたが、発表後の質問にも上手に受け答えしておりました。取り組んでいる内容は十分に伝わったのではないのでしょうか。鈴木さんの発表は私もあやめ診療所で見ているので困りごとを抱えている親子へのペアレント・トレーニングの必要性を強く感じております。鈴木さんはあやめ診療所での小児科柿原医師と共に取り組んでいますが医師、公認心理師、教師チームは地域に必要とされる存在です。この地域でも患者さんからの受診や相談は年々増加しています。普段、取り組んでいる診療やトレーニング、困りごとの相談が世の中に広く伝わると思います。

今回は賞には縁が無く悔しい思いをしていたようですが、発表内容から10分程度では伝わり難かったと思います。何かの機会に是非日頃の取組を発表して欲しいと思います。

桐鈴会の関真弓さん、中村和子さんの発表「粹に囚われないことを大切に、フレームレスファッションショー」がフォローアップ賞に入りました。おめでとうございます。

今回は観光的な時間はありませんでしたが、少人数での参加でも大変有意義な2日間でした。参加すると必ず得るものがあります。今回参加されなかった方も来年は是非参加して下さい。



萌気園二日町診療所 「曼陀羅華」 南雲 ミツエ 様

うちの利用者さん

週3回ご利用されています。

「ここに来ることが楽しみ。毎日でも来たい。」と話されていました。顔馴染みの利用者さんと笑顔で楽しそうにお話しをしている姿が印象的です。

現在は一人暮らしをされています。夫は20年前に病気で他界。夫の入院中は、毎日入院先の病院に通ったそうです。

今は長女、長男とは離れて暮らしていて、娘さんはちょくちょく来てくれたり電話をくれるそうです。「私は、娘の勤務時間が長いので体調が心配。」と、お互いを気遣い合いながら生活されている素敵な親子さんです。

以前の仕事は、市内のホテルでの業務やゴルフ場でキャディーを長年勤められ、ご自身も趣味でゴルフをされていました。「キャディー時代は、お客さんの中でも一見怖そうに見えても本当は優しい対応をされる方がいて、チップに5万円も頂いたこともあったよ。ホールインワンをしたらキャディーに1万円のチップを頂けるんだけど、中にはチップをくれないケチなお客もいる。」と笑いながら話をしてくれました。



南雲 ミツエ 様

小規模多機能居宅介護 たもんの郷

事業所紹介

多くの言葉を聞き逃さないそんな事業所でありたい

ご利用いただくご本人とご家族の話をよく伺い、可能な限り住み慣れた地域や家で生活を送ることができるようにお手伝いをさせていただきます。

通い(デイサービス)を中心に、泊まり(ショートステイ)、ご自宅への訪問介護の3種類のサービスを、顔なじみのスタッフよりご提供いたします。

住み慣れた地域や家ででの生活が続けられるよう、必要な時に必要な量のサービスでお手伝いをさせていただきます。

たもんの郷では、その人らしさを大切にするケア、いつでも頼っていただけるような地域に根差した事業所を目指しています。



壁面作り コスモス



風船ゲーム



小規模多機能ホーム さくりの郷 板鼻 由美

編集後記

11月に入り、秋の深まりとともに冬の気配も感じられるようになりました。先月の10/27(日)には、五十沢文化芸能祭に参加し、職員と利用者の皆さんと共に「キヨシのズンドコ節」と「憧れのハワイ航路」の歌体操を披露しました。会場の皆さんも動きに合わせて体操に参加してくださり、楽しいひとときを過ごしました。笑顔が溢れる交流の大切さを再確認できた瞬間でした。

これから寒さが厳しくなりますが、気温差が激しくなるこの季節は体調管理が特に重要です。インフルエンザ予防接種は、流行を防ぐための大切な対策です。感染症が増える時期でもあるため、周囲の人々を守るためにも接種をお勧めします。栄養と休息をしっかりと取り、元気に冬を乗り越えましょう。今月も皆様には有益な情報をお届けできるよう努めます。どうぞお楽しみに!



認知症者と街づくりデザイン

安心コラム

【NPO在宅地域共生全国ネット】福岡大会が11月3・4日に開催された。世代(人)も変わり、テーマも変わってきた。そのひとつに「認知症」が、多方面から研究、実践されてきた。たとえば「街づくり」に認知症の存在を前提としたデザインと建設。また福岡市に「認知症フレンドリーセンター」がつけられ、建物の中に入ってもトレイの表示一枚一枚が智恵を注いで全くちがったものになっていた。また認知症の中からボランティアがスタッフになって活躍している姿もあった。もしかすれば人件費への影響もあるのではと思った。

私は一言、今後居場所さがしが拡大すれば、また難題にぶつかるので、一層の智恵を出してほしいとお願いした。

黒岩たかひろ 衆議院議員総選挙 当選

沢山のご支援 誠にありがとうございました。

対談 地域密着の医療・介護と地方創生

ささえ愛よろずクリニック医院 今村 達弥氏
新潟市議会議員(秋葉区)・看護師 小林 ひろふみ氏
衆議院議員 黒岩 たかひろ



今村院長: 団塊の世代が後期高齢者になって認知症問題が大きな問題になっている。また、本人や周りが不安になったり過度に問題視することによって合併症としてのうつ病を発症する。

小林市議: 退院後のうつ病患者の予後は、家族や職場の対応によって大きく変わるため、症状に対する理解が大切だが、今もなかなか進んでいない。

黒岩: 社会構造の問題を変える必要がある。これは政治の問題。

今村院長: 医師不足への対応としては、地域医療大学のようなものを県立でつくってはどうか。

小林: 新潟県がハンティングチームを作り、首都圏から医師を引っ張ってくる活動をする。新潟にこども病院があるとよい。小児科の充実が大切。訪問介護の報酬引き下げが問題になっている。訪問看護や診療の際に訪問先に自動車を駐車する場所がないことも課題。行政と事業者との連携が結べるとよい。

黒岩: 地域医療や介護を充実することは、地方に若い世代が住み続けることにも繋がる。私も政治の場でできっちり対応する。

地域に学び、政治を変える(黒岩)

ささえ愛よろずクリニック 院長 医師 今村達弥



1994年新潟大学医学部卒業。学生時代より「よろず医療会」を結成し、専門家・市民ネットワークの活動を行う。下越病院・沼垂診療所などで地域医療について研鑽を積み、1999年より精神科へ転じる。2012年、ささえ愛よろずクリニックを開設。秋葉区黒岩たかひろ後援会会長。

医療法人社団萌気会 黒岩卓夫(黒岩たかひろの父)



父として長男・宇洋が秋葉区の皆さんに受け入れてもらっている事に感謝致します。私は豪雪地魚沼で50年以上に渡り地域医療に携わってきました。冬にはかんじきをはいて1日ばかりでへき地集落に往診にいったものです。そんな私の後姿をみて育った宇洋は地域に根ざす医療の大切さを誰よりも理解しているはず。東京大学医学部卒業。1976年ゆきぐに大和総合病院を建設・院長。1992年医療法人社団萌気会を創立。在宅医療では日本の医療政策での第3の医療を確立し先駆的役割を果たす。